平成 29 年度 「きのさき見て歩き」 第１回　開催しました

６月２日（金）、平成２９年度　「きのさき見て歩き」第１回～天空東山から水郷城崎を眺める～を開催しました。

コース　　城崎庁舎　→　東山公園　→　本住寺　→　城崎文芸館　→　城崎庁舎
講　師　　坂田　文一郎氏　（城崎文化協会会長）
参加者　　１３名　　スタッフとして、トライやるウィーク中の城崎中学２年生２名も同行。

＜東山公園＞

東山公園登り口
明治42年に有志とともに私財を投じて開拓し、桜や楓を植えて東山公園を整備した古島竹蔵の碑がある。

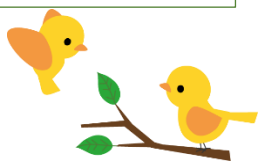
江戸時代の朱子学者柴野栗山の文学碑
栗山が円山川畔の風光明媚な様子を称えた詩が刻されている。栗山は、今の城崎温泉駅から南に下ったところにあったお茶屋でよく遊行し、そのお茶屋を「半夜水明楼」と命名。漢詩の石碑も水明楼跡地にあったが、鉄道や道路工事のため現在地に移された。

『城崎小学校百年史』には、北但大震災で焼野原になった城崎町内を東山公園から眺めた写真が掲載されている（テキストに引用）。その写真を見ながら、今の風景と比べてみる。
城崎中学校の生徒に、震災当時の城崎町の様子、また復興期を描いた島崎藤村の紀行文を朗読してもらう。島崎藤村の紀行文『山陰土産』は城崎分館所蔵。

東山公園と峰続きの日和山（本住寺裏山）から眺めた河口付近。

かつて桃島あたりは半農半漁の村で、この山から海の様子を見て漁をしていたという。

東山公園は、徳富蘇峰も訪れたり、志賀直哉『城の崎にて』にも出てくる場所。かつての賑わいの様子を資料をもとにたどりつつ散策。



＜本住寺＞

本住寺、水野伸昭住職より、本住寺創建の由来、曼荼羅湯の碑の由来などのお話を聞く。

～今から５００年ほど前、曼荼羅湯は沸騰して入浴することができなかった。それを憐んだ日真大和尚が「南無妙法蓮華経」の曼荼羅を書いて泉底に沈め、読経したところ、湯は静まり適温となった。それ以来曼荼羅湯というようになった。また、この妙義を聞いた日寿上人は他宗から信行を改め、日真大和尚の門弟となり、中ノ町に一宇を建立した。これが本住寺の始まりである。創建当時、本住寺は四所神社の東隣りにあったが、1797 年に城崎の鬼門（丑寅の方角）を守るため現地に移転した～

このほか、北但大震災の時のお話や、日蓮聖人の生涯など興味深いお話をいろいろと話していただく。

奥様に美味しいお茶を点てていただき、本住寺のお話とお茶の味が心に残ったという感想が多かった。

＜城崎文芸館＞

城崎文芸館に立ち寄り、城崎温泉の名を全国に紹介した香川修庵（江戸時代中期の医者）の『一本堂薬選』を見る。「但州城崎新湯為最第一」と記し、その効能は草津、有馬などより優れていると評価した。『薬選』が出版されことにより、城崎温泉は繁栄するようになった。

当日は、雨上がりの青空が広がり、近くに居ながら、一度も東山公園に上がったことがないという方や、他地域の方を含め、東山公園から見渡す町並、豊かに水をたたえて流れる円山川下流域の風景の美しさに、感嘆の声があがりました。寺社と城崎の町とのかかわりや、震災の話も、温泉や観光だけでなく、知らなかった城崎の一面が伺えて心に残ったという感想をいただきました。

イラスト協力　WANPUG